

創立90周年記念特集号

ひめま

宇都宮短期大学附属高等学校生徒会



45

ひめまつ 目次

(第四十五号)

表紙絵…………… 船橋有貴

題字…………… 石川木魚

写真…………… 写真部・編集部

創立九十周年にあたって…………… 校長 須賀 淳…………… 1

須賀学園創立九十周年を祝う…………… 栃木県知事 渡辺文雄…………… 4

文化都市宇都宮の中核の学園…………… 宇都宮市長 増山道保…………… 6

建学精神、花開く…………… 衆議院議員 植竹繁雄…………… 8

新しい旅立ち祝して…………… 衆議院議員 築瀬 進…………… 10

立派な人材輩出を祈念…………… 県議会議員 村田茂忠…………… 12

創立九十周年を迎えて…………… 生徒会長 篠原知子…………… 14

特集
創立九十周年を祝う…………… 16

世界の歌姫、母校のステージに…………… 18

小ホールでにぎやかに記念パーティー…………… 20

PTA、同窓会のパーティー(宇都宮グランドホテルで)…………… 20

◇大河の流れも一滴から(生徒会長に就任して)…………… 福田有美…………… 25

◇必要な協力と自覚(任務を終えて思うこと)…………… 篠原知子…………… 26

へん
伝統と飛躍…………… 27

「伝統と飛躍について」

三年 慶野 美枝

「一日一日の重みと責任」

二年 白沢 絵美

「学校と私」

二年 岸岡 志保

「飛躍を補う伝統」

一年 堀川 美聡

「必要な不断の努力」

二年 荒谷 讓治

「青い鳥を求めて」

一年 金子依里香

*心に強く響くもの(校内読書感想文入賞作品)

- 「ウエニスに死す」 三年 堀田 由香
- 「谷は眠っていた」 三年 坂田 在世
- 「人はなんで生きるか」 三年 大畑優美子
- 「死刑囚は逃げた」 二年 徳江真理子
- 「金閣寺」 二年 木更津久栄

- 「アルジャーノンに花束を」 二年 夕下 智亮
- 「チャップリン自伝―若き日々―」 一年 薄葉さか江
- 「異邦人」 一年 内川 圭介
- 「石ころのうた」 一年 長田 祐佳

◇作品集

詩 (三年) 戸崎 哲夫・守沢 里佳 他

短歌 (三年) 松井利里子・田中 一未 他

俳句 (二年) 菊池 幹子・田代 愛美 他

☆あとらんだむ

(三年) 木村 悦子 他

月関西・四国・大洗・日光の旅

(三年) 稲川 淳子
(二年) 今 智子・白上 恭代
(二年) 稲佐 明子

招待席

柿沼 敬二・和久 誠・大谷 武・杉山 雪彦

◆わがホームルームの紹介

◆委員会・クラブ活動この一年

★学友会の奉仕活動

◇学園告知板

附属中コーナー

読書感想文入賞作品・PTA役員 その他

◎平成二年度生徒会報告

◇就職状況

◇職員住所録

◇編集後記・奥付



▲長い歴史の歩みを祝う創立90周年記念式典(須賀栄子記念講堂大ホールで)

創立90周年を祝う



▲在校生を代表してあいさつする篠原生徒会長

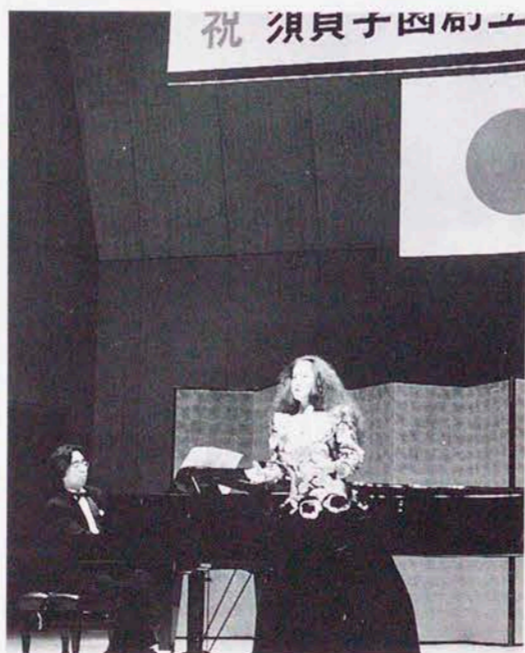


▲あいさつする須賀校長先生



▲当日の式典に出席した各クラスの代表生徒

◀永年勤続者として表彰を受ける齋藤教頭先生



▲式典に花を添えた中丸三千繪さんの独唱

宇都宮短期大学附属中学・高等学校

校歌

作詩 菅谷徳次郎
作曲 野原幸夫

ふたらのたーかねをはるかにあおぎつ
にわもにしーげれるひめまつこまーつ
まかなびのみにちすじはまきくあれと
まわらぬみさおはまよきよろあすよと
かたみにちーかわいていそしみはげむ
おしなびの(わ)こ(そ)げに(と)めう(た)けれ
あわれとめう(た)こ(そ)の(ま)なびや

校歌

一 二荒の高嶺を 遙かに仰ぎ
学びの道筋 まさしくあれと
かたみに誓いて いそしみ励む
教への庭こそ げに尊けれ
あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松
変らぬ操は 千代万代と
かたみに祝いて いそしみ励む
学びの庭こそ げに芽出度けれ
あわれ芽出度 この学びや

にぎやかに
学校祭



▲チケット間
違わないでネ



▲全
校生が趣向をこらして盛大に
学校祭



▲学校祭の人気は、小ホールを開放した食堂



▲ご苦労さま、
裏方さんの洗い場係り



▲「食堂マネージャー」も整理に懸命です

▲日ごろのお手並みを披露——と張り切る調理科生徒たち

祝賀パーティー



▲向江久夫足利銀行頭取の音頭で乾杯



▲多数の来賓を迎えて大忙しの受付係



▲記念品引き渡し所にぎわい



▲式典の後、小ホールで開かれた記念パーティー



▲校長先生ご夫妻に花束を贈る



▲当夜グランドホテルで開かれたPTA・同窓会主催のパーティーであいさつする須賀校長先生



▲なごやかなグランドホテルでのパーティー



創立九十周年にあたって

校長 須賀 淳^{あつし}

本日は、須賀学園の創立九十周年に当り、田島副知事様、増山市長様、各議員の先生方をはじめ、多数の御来賓の方々の御臨席をいただき、この新装なった須賀栄子記念講堂において記念の式典を挙行することができますことは、私の心からよろこびとするところであります。

顧みますと、明治三十三年十一月三日、私の祖母須賀栄子が二十七歳の女性の身をもって本学園を創立して以来満九十年。この間、明治・大正・昭和・平成と幾多の風雪はありましたが、おかげ

教室の一角にウエスタン酒場が出現（「ララです」）



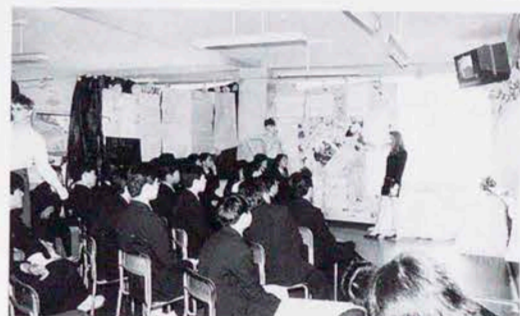
史上最高の出品数を記録した写真部



音楽科3年生による「白雪姫と7人の小人たち」



校内をねり歩くPR班



こちら、若さがムンムン



伝統の被服・手芸の展示室

生徒会役員

 副会長 阿久津純子	 副会長 宇津木弘美	 会長 福田有美	
 庶務 本山貴子	 庶務 荒川清美	 会計 関 恵美	 会計 崎のりえ
 議長団 北上 誠	 議長団 稲葉智美	 議長団 橋本多素	 議長団 岸岡志保

さまで中学・高校・短大と今日の姿に発展することができました。これもひとえに教職員、卒業生、在校生、御父兄の皆様方の御尽力と、それをあたたかい愛情で支えてくださいました多くの関係者の方々の御支援によるものでありまして、厚く感謝申し上げます。

本学園は、創立者の須賀栄子、第二代の須賀友正、そして私と、三代九十年にわたり、建学の精神を受け継いで私学教育に邁進してまいりました。創立者須賀栄子の膝下で育った私は、学園創業の苦難も子供心によく知っておりますし、父須賀友正の守成の努力、とくに戦中、戦後の激動の時代の苦難は、私も身をもって体験しているところであります。

私学は独自の崇高な理想と信念によって設立されております。いわゆる建学の精神であります。しかし時世はつねに移り変わります。教育もまたその時代の要求に応じて新しく脱皮してゆかなければなりません。古きのみを守ってはなりませんし、また新しいものばかりを追っていてもいけないのであります。孔子も「故きを温ねて新しきを知れば、以て師たるべし」といっております。いま平成の世となって、新しい時代は国際化、情報化、成熟化に向うという大きな文明的転換期にさしかかっております。二十一世紀の社会が教育にもたらすであろう可能性と問題点を見据えながら、本学園も大きく発展してゆかなければなりません。

本校は現在卒業生三万二千名、在校生二千六百余名を擁する中学・高校となっておりますが、この学園の発展は一朝一夕になしえたものではありません。創立者須賀栄子がか弱い女

性の一身を賭して営々と築き上げた辛苦の賜であります。私はつねに自粛自戒、もって創立者の理想を継承して、本学園の充実発展に務め、生徒の教育に全力を傾注いたしたいと存じます。

本日御臨席を賜りました御来賓、PTA、同窓会の皆様方、そして直接私を支えてくださっております教職員の皆様方におかれましては、これからも末長く本学園に対しまして変わらぬ御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

また、在校生の皆さんは、意義ある本日の創立九十周年の式典に際し、本校の長い歴史と伝統を思い、心を新たにして「一人は一校を代表する」の生活目標のもと、一心に勉学に励んでいただきたいと思っております。

最後に、本日の式典に御臨席を賜りました皆様方の御健勝と御多幸を祈念して、私のごあいさつといたします。

【校長略歴】宇都宮高校、東京大学卒業、昭和二十四年文部省勤務、文部大臣秘書官、文化財課長、教科書課長、初等教育課長等を歴任、昭和四十二年須賀学園に戻る。
現在、須賀学園理事長、宇都宮短期大学長、同附属中学校長、高等学校長、宇都宮大学教育学部講師（学校制度担当）、日本私立短期大学協会常任理事、日本私立中学高等学校連合会理事、栃木県私学審議会委員、栃木県公安委員、栃木県交響楽団会長等

祝辞

須賀学園創立九十周年を祝う

栃木県知事 渡辺文雄

須賀学園創立九十周年の意義ある式典が、かくも盛大に挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

顧みますと、須賀学園は、明治三十三年に本県私学の草分けとして、須賀栄子先生によって創立され、爾来九十年の歳月を経て今日の隆盛を見るに至りました。

この間、昭和二十三年には、須賀学園高等学校の学校法人化がなされ、昭和四十二年には、待望の宇都宮短期大学を設置、翌四十三年には、高等学校を宇都宮短期大学附属高等学校と改称、さらに、昭和五十八年には、宇都宮短期大学附属中学校を設置し、中高一貫教育を実現されるなど、明治から平成までの永きにわたり幾多の困難を克服して学園の整備を図られるとともに、「行を通した人間教育」という建学の精神と共に「一人は一校を代表する」という生活目標を高く掲げて教育の充実に努められ、多くの優れた卒業生を輩出してこられた実績は、各方面から高く証価されているところであります。

本日の喜びとともにできますことは、ひとえに教職員の皆様の御労苦の成果であり、又P

TAをはじめ、同窓会、関係各位の献身的な御尽力の賜と深く敬意を表する次第であります。御承知のとおり、今や世界は、東西両ドイツの統一や米ソ関係の改善等に象徴されますように、新しい時代に向けての大きなうねりの中にあり、我が国が、国際舞台において、どのような役割を果たしていくべきかが大きな課題となっております。

また、国内におきましては、高度情報化、急速な技術革新の進展、さらには、高齢化社会の到来といった、かつて経験したことのない急激な社会情勢の変化に適切に対処していくことが求められております。

したがって、今後は、これからの諸情勢に対応できる様々な個性、適性、能力を有した人材の育成が不可欠であり、学校教育に対する国民の熱い期待が寄せられておりますが、とりわけ、特色ある教育を実践している私立学校への期待はますます高まっております。

このため、県といたしましても、「明日をひらく人づくり」を県政の重要課題と位置づけ、私学教育の振興に鋭意努力しているところであります。

貴学園におかれましては、常に時代の変化を先取りした対応と独自の教育方針に基づいて、着実に教育の成果を上げておられますことは、誠に御同慶にたえないところであります。

創立九十周年を節目といたしまして、貴学園が今後ますます教育の実を挙げられ、県民の期待に応えられるよう念願するものであります。

終わりに、本日御参会の皆様のご活躍と御健康を心からお祈り申し上げましてお祝いの言葉といたします。

文化都市宇都宮の中核の学園

宇都宮市長 増山道保

菊花薫る今日の佳き日に、須賀学園の九十周年記念式典を皆様と共に、喜びの中に迎えることができ、心からお慶び申し上げます。

本学園の長い歴史、そして伝統に心打たれているところでございますが、生徒の皆さんおひとりおひとりにも、緊張の中にも目の輝きの中にもこの喜びを受けとめながら、はつらつとした精気が場内に満ちあふれております。このことは一重に本県で初めて女子私学を創設されました須賀栄子先生の情熱が、脈々と今も受け継がれ、生徒の皆さん方一人ひとりに「一人は一校を代表する」という教えが、引き継がれているからだと思います。

戦火で学園の全てが灰に帰したことなど幾多の苦難の道がございました。しかしながら、こうした難局に立ち向かう度に、友正先生や諸先生方、そして学校をとりまく多くの関係者の皆さま方が心一つにして、理想の学園づくりを進めてこられたからこそ、今日がありますことを、しみじみと感じるわけであります。現在、本学園が、淳理事長先生の下に、個性を尊重し、創造力豊かな生徒の育成にとめられまして、教育界や音楽界に優れた多くの人

材を世に送り出しております。まさに本県はもちろんのこと、関東屈指の、真の教育の充実した学校として隆盛をきわめております。

こうした中で、今年七月には、本市が姉妹都市を提契しておりますニュージーランドのマヌカウ市、ホーウィックカレッジと姉妹校となりました。そして、その交流をはかるなど国際化時代にむけた新たな取り組みを進めております。まさに目をみはるものがございます。

宇都宮は市として、本校と相前後いたしました明治初めに誕生しました。今日、力強い歩みを進めておりますが、街づくりは人づくりと考える時に、本校の歴史と共に宇都宮は歩んできた様に思います。そして私どもは、街づくりの一つの施策としての教育環境の整備、充実は、更に、努力してゆかねばならないと思うのであります。現在、本市には六つの大学がございますが、宇都宮短期大学にはその先頭をきっていただいで、文教都市宇都宮の中核として隆盛を願ってやまないものであります。

学園の生徒の皆さん、どうか多くの先輩の皆さんが築きあげてこられましたこの伝統、そして今日という日にめぐり合えた喜びと感激を胸にひめながら、更にご精進あられますことを祈念申し上げます。

須賀学園のますますの発展、皆様方のご健勝をご祈念申し上げて、お祝いのことばといたします。

おめでとうございました。

建学精神、花開く

衆議院議員

植竹繁雄

本日は、素晴らしい秋晴れの中、須賀学園の創立九十周年を皆様と共に、盛大にお祝い申し上げますことができ、心からお慶び申し上げます次第です。

須賀栄子先生によって創立され、友正先生、淳先生と三代続かれました本学園の建学の精神が、今ここに、花開いている現実を見、私どもは本当に嬉しく存じております。また、先程表彰を受けられました諸先生方には心から敬意を申し上げます次第でございます。

明治三十三年創立と申せば、まさに二十世紀のスタートの年でございます。この須賀学園は文字通り、二十世紀と共に出発し、今日まで発展し、新しい二十一世紀を迎えようとしているわけでございます。しかしこの間、幾度の困難があったことでしょう。景気の変動、教育界の動き、戦争など切実な問題がございました。しかし、建学の精神が今日まで変わらず受け継がれてまいったということに、私は素晴らしいさを感じるのであります。

戦後四十五年がたち、教育の変遷とともに教育界のあり方も変わり、色々と混乱もあったわけですが、日本全体では、教育の画一化が行なわれました。その時にあって、私学の持つ

個性豊かな教育方針というものが実に大きな意義を有していると、私は思うのであります。

そして今、あと十年もたてば二十一世紀を迎えるわけですが、今の国際化社会の中にあつて日本人は何をなすべきかが問われているところでもあります。日本の歴史と伝統を伝え、日本精神を伝えて行く中で、教育に課せられたその使命は、誠に重大であると思われま

す。私学行政は、そういう意味におきましても「心」という最も大切なものを建学の精神に取り入れ、教育をなさっております。ですから、私は私学に大いに期待しているところでございます。

私も、衆議院と自由民主党におきまして、文教関係の仕事をさせて頂いておりますが、日本の歴史と伝統を次世代に残していくためにも、教育の新たな見直しが必要ではないかと思つている次第です。

また、ここにお集まりの生徒の皆さん。皆さんは、先輩の築いてこられた九十年という歴史と伝統を記念したこの年に在学されたということは、誠に意義深いことと思つています。ですから、皆さんは、須賀学園で学んでおりますその精神を、今後十分に発揮されて、須賀学園の将来のために、ひいては日本の将来のために頑張つて頂きたいと心から望む次第でございます。

最後になりましたが、須賀学園の一層のご発展、皆さまのご健勝をお祈り申し上げて、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、まことにおめでとございました。

新しい旅立ち祝して

衆議院議員

築 瀬 進

皆さんこんにちは。そして本日は須賀学園創立九十周年、誠におめでとうございます。宇都宮には、市民から大変親しまれ「さん」づけで呼ばれる名前が三つあると、子供の時からよく聞かされました。二荒山神社、テパートの老舗である上野さん、そしてもう一つはまさに須賀さんであります。私は子供心にもなぜ学校を須賀さんと呼ぶのだろうと思っておりましたが、先程、栄子先生の記録を読ませて頂き、ご生涯を教育にささげられたそのひたむきさを知ったわけですが、その姿勢に対して市民が単なる学校名ではなく「さん」づけで呼びたいという気持ちになったのだとわかりました。そして、その精神は、現在の淳先生までも受け継がれているわけです。

私自身も淳先生とは因縁も深く、色々な所でお教えを頂いております。私の事務所も松が峰の須賀学園発祥の地、現在の須賀先生のご自宅に近く、私の家内も宇都宮短期大学音楽科の卒業生でございますし、また、私の趣味で参加させて頂いているオペラの練習に、何度も旧講堂を使わせて頂いております。この学舎が、本当に他人のような気がしないのであり

ます。

そして本日は、新築あいなったこの立派なホールで、マリア・カラス国際声楽コンクールで優勝された本校の卒業生、中丸三千繪さんの歌が聴けるといことは本当に素晴らしいこととあります。創立者栄子先生も、さぞお喜びのことと思います。

また、進学におきましても、東京大学をはじめ立派な大学に数多く生徒を送り出しておられるということは、この学舎が、宇都宮ならず栃木県の代表校であると言えるわけで大変喜ばしいかぎりでございます。これらのことは、まさに、時代のニーズを適確に把握しながら教育を行っている須賀 淳先生の舵取りが大きな成果につながっているとと言えるわけです。

今日の日本の教育をめぐる状況というものは、いろいろと変わってまいり、また、我々ととりまく国際環境も多様化してまいり、いわば大きなうねりの中に我々はいるわけです。そんな中で次の世代を担う若者たちをどのように教育していくのかということは重大な問題となっております。そのような中において須賀学園は、建学の精神をいつまでも大切にし、新しい時代に即応しながら、新しい状況の中で、もっともっと飛躍発展をしていただきたく存じます。

今日は、九十周年の喜ばしいお祝いの日でございます。本学園の皆様には、過去に思いをはせ、そして未来をみつめて新しい旅立ちをしていって頂きたいと心からお願いをしてお祝いの言葉に代えさせて頂きました。

本当におめでとうございました。

立派な人材輩出を祈念

県議会議員

村田茂忠

今日は、須賀学園九十周年、誠におめでとうございます。県議会から三名出席させていただいておりますが、代表して一言、お祝いの言葉を申し上げます。

九十周年と一口に申しますが、ただ今理事長先生からお話がありましたように、明治、大正、昭和、そして平成と、多大な困難を乗り越えて、今日の須賀学園があるわけで、そのことに私は心から敬意を表したいと思います。また、この須賀栄子記念講堂で、私がお挨拶をさせて頂けますことを大変光栄に存じております。

須賀学園が今日まで隆盛を極めて参りましたことは、皆様によくご存知のことでございますが、私事を言わせて頂けるならば、私は、前理事長の須賀友正先生の後輩として、実は大変可愛いがられたのでございます。私をはじめとして県議会に立候補しました時に先輩を頼りまして、本当に慈愛のこもった、あたたかい思いやりのあるお言葉を頂いたものでした。その教えは、今でも忘れることがございません。私は教育というものは、その人のお人柄というものの反映であると思います。また、その点から教育は出発しなければならぬと思います。

友正先生は教育者の鏡であったと思います。またそのお人柄により、県の公安委員としても功績を残され、教育界だけではなく、広く私たちのためにつくされたお方でございました。

そして、現理事長である淳先生におかれましても、県の各審議会において、熱心に県民のためにご貢献なさっております。

淳先生は、創立者栄子先生の上で育たれたようですが、さすれば、まさに栄子先生が今日の淳先生をおつくりになり、今日の須賀学園がかように発展され、天下に立派に名を轟かせているのも、ゆえあるかなであると思うのでございます。

そして、このように立派な先生の下で日々生活を送られている生徒の皆さん、皆さんは、微動だにせず、こうして私の話を聴いてくださっています。これは立派なことだと思えます。これこそ、まさに須賀学園の教育の賜だと私は思います。皆さんは、ここに学んでいることを誇りに思い、三万三千人有余人の卒業生に続き、各界各層において活躍されますことを祈念申し上げます。

そして、須賀学園が、百年、二百年と、あるいはその先に向かって、ますます栄えていかれますこと、つまり、日本そして世界のために有為な、立派な人材を輩出していかれますことを心から祈念し申し上げてお祝いの言葉といたしたいと存じます。

あいきつ

創立九十周年を迎えて

宇都宮短期大学附属高等学校 生徒会長 篠原知子

遙かな山なみの彩りの変化や、晴れ渡る空の清澄な色合いに秋の深まりが感じられるころあいの今日の佳き日に、多数の来賓の方々の御臨席をいただき、私達の学校の創立九十周年記念式典が挙行されますことは、時宜に遭い本校に在学する私達生徒一同にとりまして、大きなよろこびであり、この上もない感激でございます。

私達の学校では、毎年十月十四日の、創立者須賀栄子先生の御命日には、校長先生のお話をお聞きして、その後で各クラスの代表が、八幡山の先生のお墓にお参り致します。そして、私達は、栄子先生の御立派なお人柄と建学の精神を偲び、本校の歴史の重みを知り、その輝く伝統をしっかり引き継いで、さらに発展させていこうと、私達一人一人の意欲を高めて合っております。

本校を創立された栄子先生は、生徒たちにはたいへん優しく、またときにはたいへん厳しい先生でありましたが、とくに御自分にはとても厳しいお方であつたとお聞きしております。と申しますのも、お生まれになって間もなくお母様を亡くされ、一番上のお姉様に育てられたとのことです。このお姉様が武士の家のお育ちである上に、明治天皇の皇女様づきの女官をされておられた方で、先生はそのお姉様に、幼い頃から立ち居振舞いや言葉づかい、他人への心遣いなど、厳しくしつけを受けて育てられたそうです。本校で大切にされているしつけ教育は、このお姉様から幼い栄子先生に受け継がれ、栄子先生亡き後の本校の教育の中にしっかりと根付いて生きているものと思われまます。

昭和の時代に入り、第二代の須賀友正校長先生、第三代の須賀淳校長先生と、本校はますます発展の一途をたどってまいりました。栄えある創立九十周年を迎えるに当りましては、その記念としてたいへん立派な、この須賀栄子記念講堂が完成致しました。このような恵まれた環境の中で、現在二千四百名の私達は、雨にも負けず、風にも負けない精神で、切磋琢磨、勉学に励んでおります。私達の生活の土台は、建学以来の厳しいしつけ教育であり、また永い伝統の中から生まれました「一人は一校を代表する」という生活目標です。この伝統と生活目標を私達生徒一人一人が、各自の心に刻みつけ、それぞれの将来を指して日々の生活を送っております。

私達は、この九十年の永きにわたって築かれた本校の輝やかしい伝統を、私達一人一人の日々の精進によって、より素晴らしい、そして揺ぎないものにして、後に続く後輩に引き継いでいきたいと、心から願っております。

どうか来賓の皆様、同窓会の先輩の皆様、御父兄の皆様には、本校に学ぶ私達生徒を、暖かく見守ってくださいませよう、お願い致します。本校創立九十周年の記念すべき日にあたりまして、私達の大きな感激と新たな覚悟をのべて、ごあいさつと致します。

特集

創立九十周年を祝う

多数の来賓迎へ一層の発展期す

盛大に記念式典行われる

本学園の創立九十周年記念式典は平成二年十一月二日午前十時三十分から、須賀栄子記念講堂大ホールで行われました。

来賓として渡辺文雄知事(代理、田島一郎副知事)、増山道保宇都宮市長、植竹繁雄、築瀬進両衆議院議員や多数の県・市議会議員、向江久夫足利銀行頭取など本学園と関係の深い各界代表と松岡祐祥PTA会長、篠崎キミエ同窓会長はじめ各科後援会長、教職員、生徒代表など八百名が参列しました。

式典はまず司会の齋藤太嘉男教頭先生の開会のことばで始まり、参列者一同で国歌斉唱のあとに、本学園理事長の須賀 淳校長先生が創立九十周年を迎えるに当って「創立者須賀栄子先生の創業の苦難、第二代校長須賀友正先生の戦中・戦後の激動の時代の苦難を偲び、今、平成の時代、国際化、情報化という大きな文明史的転換期に際し、長い間にわたる各方面の御協力に感謝するとともに、今後ますます皆様の御尽力により学園の充実発展に邁進したい」と旨のあいさつをのべられま

した。

つづいて永年勤続者の表彰があり、校医の水沼三郎先生、松岡祐祥PTA会長、篠崎キミエ同窓会長や齋藤教頭先生はじめ教職員など永年勤続者二十七名に校長先生から表彰状と記念品が贈られました。

そのあと、来賓の祝辞に移り、知事、市長、国会議員、県議会議員の方々から前掲(来賓祝辞の項)のようなお祝いのごとばをいただきましたが、とくに来賓の方々は口をそろえて本学園の輝かしい伝統をたたえ、今後なお一層の発展を期待することを強調されていました。

また、この日をお祝いする各方面から寄せられた祝電が披露されたあと、在校生を代表して篠原知子生徒会長が「多数の来賓の方々をお迎えして、この創立九十周年記念式典が行われますことは、私たち生徒一同にとって、大きな喜びです」とあいさつ(別掲)をしました。

最後に校歌斉唱があり、午前十一時二十五分に式典

を終了しましたが、つづいてこの日のメイン・イベントとして、「世界の歌姫」―三月にマリア・カラス国際声楽コンクールに日本人としては初めて優勝した本校卒業生の中丸三千繪さんの記念演奏があり、満場の聴衆を魅了しました。

〔永年勤続表彰者氏名〕 (敬称略)

水沼三郎 松岡祐祥 篠崎キミエ 齋藤太嘉男 太田茂雄 松本照二 大島威夫 伊沢雪代 築島千代 金田敏彰 伏木政枝 根木英孝 島村敦子 森嶋

校医 PTA会長 同窓会長 教職員

岡田一成 新井好寿 信夫享 松浦一雄 永島利雄 大崎雄昭 藤橋紀子 五十嵐みどり 佐藤しげ子 森塚栄一 山形恵子 (以上二十七名)

世界の歌姫、母校のステージに

須賀栄子記念講堂大ホールのステージに「世界の歌姫」中丸三千繪さんが現れると、客席からは万雷の拍手。中丸さんは、にこやかなほほえみでこれにこたえます。

さすがに声楽家の世界的登竜門、マリア・カラス国際声楽コンクールで優勝した誇りと自信が、その全身に満ちあふれています。

三月の優勝後は、世界各地での演奏スケジュールがいっぱいで、三年先までびっしりという超多忙な中を、母校の創立記念式典とあって、わざわざイタリアのミラノから駆けつけてくれたのです。

イタリアから同行した伴奏者横山修三さんのピアノではずかしめられたらしい人よ（ヴィヴァルディ）▽歌劇「オテロ」より柳の歌、アヴェ・マリア（ヴェルディ）▽歌劇「ラ・ボエーム」より、私の名はミミ（プッチーニ）▽歌劇「椿姫」より、過ぎ去った日々（ヴェルディ）▽歌劇「ルイーゼ」より、その日から（シャルパンティエ）など、お得意の曲目を歌いました。

会場いっぱい聴衆は、すばらしい、そして豊かな音量にあふれる、その歌いぶりに圧倒されて水を打ったような有様で、しばしうっとりとした歌境にひたっておりました。さらにアンコールにこたえた後、中丸さんはステージから、在学中の思い出などを披露し、参列していた生徒代表の皆さんに対してしっかりと頑張ってくださいと激励しまし

た。また音楽科の生徒代表から花束が贈られてニコリ。記念演奏の後、集った報道関係者の一時間余に及ぶインタビューを受け、これまでの長くけわしい研鑽時代のことや、今後のスケジュールなどについてお話しをしてから、小ホールでの記念祝賀パーティーに出席しました。

恩師や友人、知人となごやかに語りながら在学時代の思い出話を花を咲かせていましたが、皆さんに囲まれて中丸さんは、ステージの時の厳しい顔とは、うって変わったくらいに楽しいひとときを過していました。

「中丸三千繪さんの略歴」

一九七九年本校音楽科卒業。一九八三年桐朋学園大音楽部卒業。一九八五年同大学院研究科修了。後藤寿子、東敦子の各氏に師事。大学在学中の一九七九年および一九八〇年にニューヨーク留学、ジュリアード音楽院教授ロイズ・パンプトン、ダニエル・フェロー両氏に師事。さらに、一九八一年ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽学院に留学。

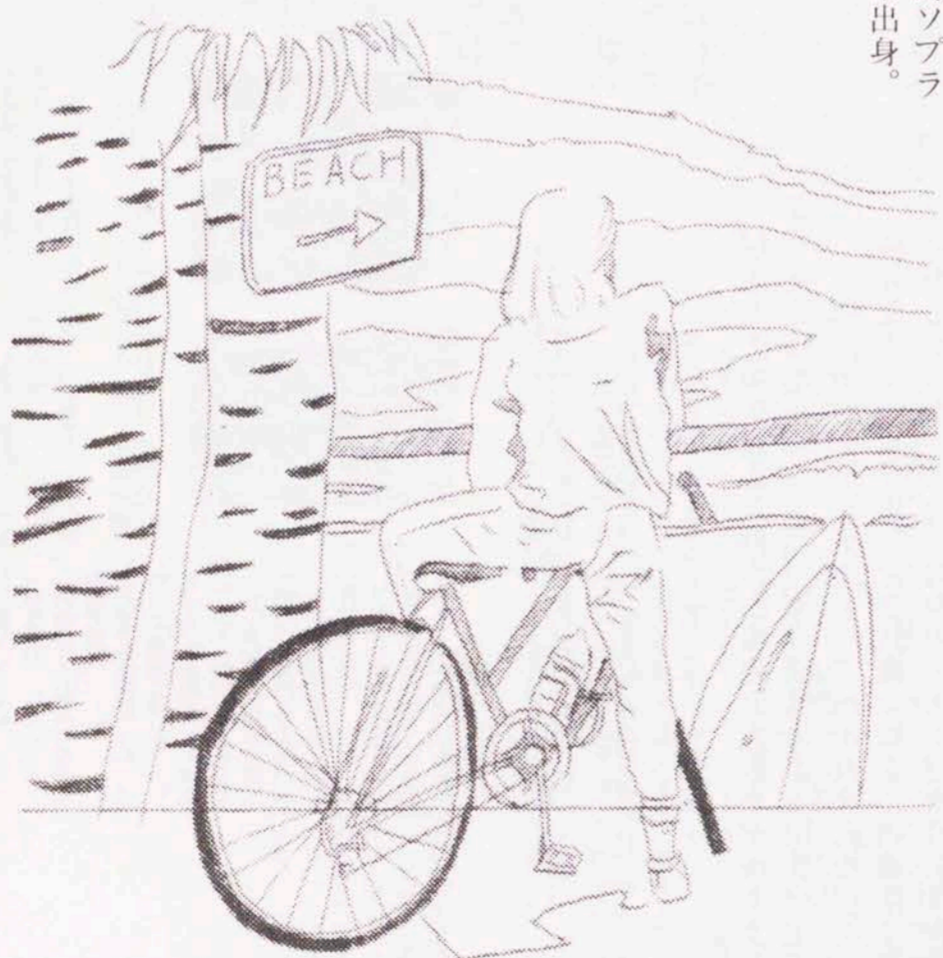
一九八六年小澤征爾指揮日本フィルハーモニー交響楽団R・シユトラウス「エレクトラ」でタイトル・ロール、エレクトラを歌いデビュー。

その後ロンドン、パリ、ニューヨークを中心に研鑽に励む。

一九八八年フィラデルフィアでのルチャアーノ・パヴァロッティ国際声楽コンクール、同年マリア・カニリア国際

声楽コンクール及びフランチェスコ・パオロ・ネリア国際声楽コンクールなどでいずれも優勝。そして一九九〇年三月三日ベネチアで行われたマリア・カラス国際声楽コンクールで、日本人としては初めての優勝を果す。

その後、ミラノ・スカラ座にてマラー交響曲第二番「復活」のソリストに迎えられ、またフィレンツェ、テアトロ・ヴェルディ秋のコンサートに出演するなど、世界的ソプラノ歌手として活躍。現在ミラノ在住、茨城県下館市出身。



2年 福田有美

小ホールでにぎやかに
記念パーティー

須賀栄子記念講堂大ホールでの創立九十周年記念式典、つづいて行われた中丸三千緒さんの記念演奏ののち、会場を同講堂の小ホールに移して午後零時三十分から記念祝賀パーティーが催されました。

須賀校長先生のあいさつのあと、向江久夫足利銀行頭取が「須賀学園のますますの発展と参会者の皆さんの御多幸を祈念いたします」との音頭で一同乾杯しました。

なお参列者には記念品と祝葉のほか生徒会発行の「ひめまつ」臨時増刊号である九十周年記念誌、学校新聞「若鮎」、創立者を偲ぶパンフレット、学校案内などが配られました。

PTA、同窓会のパーティー
宇都宮グランドホテルで

創立九十周年記念式典の一切の公式行事が終了しました二日午後五時から、PTA、同窓会関係による祝賀パーティーが、宇都宮市のグランドホテルで開かれました。

校長先生が「九十周年記念式典も皆さんのお陰で無事終了いたしました。こんどは身内の方々ばかりですからゆつくり楽しんで下さい」とあいさつをのべられ、さつきそくパーティーに移りました。

校長先生のごあいさつのように、学校関係者だけのため、パーティーは大変なごやかな雰囲気の中ですすめられ、この席上、PTA、同窓会、職員などが校長先生御夫妻にそれぞれ花束を贈り、日ごろの御苦労に報いました。

各新聞に紹介

一層の私学発展誓う
母校出身 中丸さんが記念演奏



90周年記念式典であいさつをする須賀厚校長

【宇都宮】須賀学園 宇都宮 須賀栄子記念講堂大ホールで開かれた、創立九十周年 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

〈栃木新聞 11月3日(出)〉



記念式典で独唱する 中丸三千緒さん

【宇都宮】宇都宮短期大学 須賀栄子記念講堂大ホールで、創立九十周年記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

【宇都宮】宇都宮短期大学 須賀栄子記念講堂大ホールで、創立九十周年記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

〈下野新聞 11月3日(出)〉

母校に「世界のノド」



唱る中丸さん

【宇都宮】宇都宮短期大学 須賀栄子記念講堂大ホールで、創立九十周年記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

〈産経新聞 11月3日(出)〉

盛大に創立90周年

宇都宮・須賀学園

華やかに90周年

【宇都宮】宇都宮短期大学 須賀栄子記念講堂大ホールで、創立九十周年記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

【宇都宮】宇都宮短期大学 須賀栄子記念講堂大ホールで、創立九十周年記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

【宇都宮】宇都宮短期大学 須賀栄子記念講堂大ホールで、創立九十周年記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

昭和四十年 宇都宮短期大学 創立四十周年 宇都宮短期大学 同窓会 須賀厚校長の記念式典が、同日、同窓会の須賀厚校長が、

〈下野新聞 11月3日(出)〉

後輩にプレゼント

宇都宮 <東京新聞 11月3日出>



朝門博、在校生から花束を贈られる中丸三千繪さん（左）

「後輩の皆さん、自分の道で頑張ってください。私も頑張ります。母の背中を思い出してください。母の背中を思い出してください。母の背中を思い出してください。」

「朝門博さん、自分の道で頑張ってください。私も頑張ります。母の背中を思い出してください。母の背中を思い出してください。母の背中を思い出してください。」

<朝日新聞 11月3日出>

秋の色



「秋の色」は、朝門博さんの作品です。朝門博さんは、音楽界の巨匠です。朝門博さんは、音楽界の巨匠です。朝門博さんは、音楽界の巨匠です。

「愛しき人よ」に思い込め

「愛しき人よ」は、朝門博さんの作品です。朝門博さんは、音楽界の巨匠です。朝門博さんは、音楽界の巨匠です。朝門博さんは、音楽界の巨匠です。

「高校時代、試験になるとグメだった。」



母校の周年記念式典で歌った後、高校時代の思い出を語る中丸三千繪さん

中丸三千繪さん 母校で記念演奏

宇都宮大付属高校 宇都宮市 宇都宮大付属高校 宇都宮市 宇都宮大付属高校 宇都宮市

<宇都宮よみうり 11月9日金>

学園告知板

宇都宮市鶴田町三三三三三三三三三三
森 権一郎様から
生徒会へ

平成二年度のPTA総会開く

敬老の日にプレゼント

五月二十六日に平成二年度PTA総会が開かれ、次の役員が選出されました。

会長	松岡 祐祥
副会長	篠崎キミエ
同	田村昭夫
同	山崎守夫
同	猪瀬捷詔
同	網島恒雄
同	六川彦次
同	久我 晃
会長監査	阿部隆久
同	磯 正美
同	田子裕三
相談役	渡辺 衛
同	岡田喜三
常任委員	他百二名

ことしも敬老の日に生徒会(篠原知子会長)では在校生の家庭で同居している七十歳以上のお年寄りに美しい水仙の花模様が入った鎌倉彫の菓子鉢を贈りました。対象になったお年寄りは七百五十七人(うち附属中学校関係は三十七名)。

そのうちの最高齢者は生活教養科二年十一組、床井幸恵さんの曾祖母マさんで明治二十九年三月十五日生れの九十四歳でした。マさんの長生きの秘訣は梅干を毎日食べ、油っぽいものはひかえめに。そして夕食にはおちよこ一杯のお酒が長生きのお薬だそうです。

なお沢山のお礼状をいただきましたが、そのうちの一通を掲載させていただきます。

生徒会の御皆様!

暑い季節も過ぎて秋の気配一段と深まりつつ、ある折御元気で御通学のことと存じます。

私も七十二才の秋を迎え、益々元気で毎日を過ごしております。

先日「敬老の日」に御皆様より御高配をいただき本当にありがとうございます。御皆様よりの「記念の品」は末長く使用させていたくつもりです。

早速御礼をと思いつ、大変延引して誠に申し訳ありません。

学校もそろそろ秋の行事にて御皆様にも毎日お忙しきことと存じます。天候の変わり易き折柄くれぐれも御体お大切に御過ごし下さい。

御皆様御機嫌良う
甚だ乱筆にて申し訳ありませんが先ずは御礼まで。

十月八日

生徒会の御皆様に

「暑さにも
負けず励めし
その努力
秋の行事に
向けて進めよ。」(愚作)

「入試説明会の出席先生から」

荒川中学校
田村 卯先生から

三年十二組 海老原美和さんへ
猛暑が去り、やっと秋らしくなってきました。
九月二十一日におこなわれました高校説明会の折りに、海老原さんのフルーツケーキをおみやげにいただきました。とても上手にやけていて、家族みんなでおいしくいただきました。ありがとうございました。
高校生活も残り少なくなってきましたね。お体に気をつけて活躍下さい。
九月二十五日

那須郡南那須町東原50

荒川中学校

田村 卯

清原中学校

佐藤尚男先生から

二年九組

戸谷綾子さんへ

おはようございます。毎日頑張っていますか。
先日貴校での学校説明会の折、美しいプローチをいただきましたありがとうございます。
「フランス刺しゅう」手芸作業の中でも大変手先の器用さと、精密さを要求される、根気の必要な仕事ときました。
娘に大切に使用させていただくように話し、感激しました。青春まつただ中の高校生活、貴校の校訓「一人は一校を代表する」のように自分の存在を認め世の中に貢献できる人間を目ざして自分を信じ有意義な高校生活を送ることを願ってお礼いたします。頑張ってください。

陽北中学校

佐藤 健先生から

一年十一組

大森優子さんへ

突然のお便りで驚きのことと思います。私、さる九月二十一日の貴校の入試説明会に参りまして、貴女の作られたフランス刺繍のプローチをいただいて参りました。
娘にも思いましたが、出来栄の素晴らしさと一針一針たんねんに刺したことを思うと、ぜひ先生方にそして生徒たちにも見せたいと思ひ、理科の小原先生の胸につけていただくことにしました。これから先、あなたの作られたプローチが、本校の教室で輝きを放つことになるでしょう。あなたの精進の賜物です。これからも精進され、より充実した高校生活にされることをお祈りいたします。
最後になりましたが、ご指導くださった先生方にもくれぐれもよろしくお伝えください。ワープロで失礼とは思いますが、お礼を述べさせていただきます。失礼いたします。

〔投書〕

失礼します。去る七月十日、私は総合グラウンドで貴校の生徒さんに大変お世話になりました。

私はジョギング愛好者の一人で定年退職後は平日にも総合グラウンドへ走りに行きます。

この日は貴校が何か大会を催していたようで、グラウンドとトレーニングセンターの間の道路や空き地ではバドミントンの練習や移動でにぎわっていました。

一、二周は「ああ、誰か走っているな」くらいで、私に特に気を配る様子はありませんでしたが、そのうちに私に道をあけてくれたり、「フアイト、フアイト」と小声で励ましてくれたり十四周目には「おじさん、がんばって」と明るく声をかけてくれました。私もつい「はい、ありがとう」と返事をいたしました。

私はいつになく、さわやかにになり、快走して帰宅いたしました。翌日も同じ頃行ってみましたがお会

いできず、貴校前をマイカーでの帰宅途中、前日の同じユニホームを見て貴校の生徒さんとわかりました。

日頃の貴校の指導のすばらしさが、見知らぬ「オジン」にまで、さり気ない心配りとなって現われ、温かい励ましとなったものと思いました。いつまでもうれしくてペンを執りました。感謝、感謝です。

(県内、住民の一人)

磯さくらさん最優秀賞に
心の輪を広げる体験作文

身体の不自由な人たちにあたたかな手をさしのべよう——と県が募集した「心の輪を広げる体験作文」に二年の磯さくらさんが見事、最優秀作品に選ばれました。その作品は全国コンクールにも出品され佳作となりましたので紹介いたします。

「毎年毎年講習会が終わる度にお話していることなのですが、私達健聴者は手話をやめたくなくなったら、いつでも

やめることができます。でもろうあ者は、やめたくなかったからといって決してやめることはできません。ろうあ者にとって手話は、口であり、また耳でもある、かけがえのない大切なものだからです。このことをよく考えた上で、一人でも多くの人に手話を続けてほしいと思っています。」

四年前、一瞬のうちに私の心に焼きついた、手話の講習会での先生の最後の言葉。この言葉によって、私は手話を続けていこう、と決心したので

街などでみかけるたくさんの方達。その中で、観察力の鋭かった私のみつけたもの、それが手話でした。手と手でお話ができるなんて、まるで魔法みたい。いつのまにか興味を持ち始めた私は、中学一年生の夏、母に連れられ手話の講習会へと行って見ました。ところが、そこには私の思っていた雰囲気とは似ても似つかないようなものが待ち受けていたのです。

私のように遊び半分で来ている人などどこにもなく、みんな真剣に勉強している人、それも大人ばかり。そんな中で始まった手話の勉強だったので、

いやでいやでたまらなかつたのです。中でも唯一私が我慢できなかつた事、それはろうあ者が出すあの奇妙な声でした。手話によって我が身の不幸な障害を補っている人達と、尊敬の念すら持て眺めていたのに、この声によって私は一変してしまつたのです。そしてろうあ者を軽蔑するようになってきたのです。

そんな私にこの最後の言葉が静かに流れ込んできました。一体私は何を学んできたの。手話という単なる技術、ただそれだけで続けてきた私。でも本当にそれだけでいいのでしょうか。

手話と出会い、障害者に対する抵抗がなくなつたことは勿論、手話の大切さ、ろうあ者の数々の苦勞については、十分に理解したつもりです。しかし、私のろうあ者に対する接し方はどうだったでしょうか。話しかけられても答えられなかつたり、わざと目をそらせてみたり……。心から接してはいなかつたのです。うわべだけで軽く接し、心の扉は少しも開いてはいなかつたのです。

気の毒だと思いつつ軽蔑し、手話を

覚えたい反面、ろうあ者とはかわりを持ちたくない。あの言葉が、こんな悪魔のような醜さを私にはつきりと示してくれたのでした。そして、絶対に手話を続けよう、という意欲を燃やしてくれたのです。

このようなことがきっかけで、私は迷わず手話サークルに入会しました。そして中学校三年間、一生懸命手話を勉強し、ろうあ者との交流を少しずつ深めていったのです。しかし、サークルから私が得たものは、それだけではありません。

まず驚いたことは、サークルの人達のろうあ者に対する接し方です。特に優しく思いやりを持って接しているわけではなく、ごく普通ですが、とても和やかで暖かな感じがしました。また、それに答えるろうあ者も、とっても楽しそうにわかりやすい手話で応じてくれます。そのおかげで私は、今まで持っていたろうあ者に対する偏見や疑問、その他数々の心の抵抗をすっかり消すことができたのです。

ある日のことです。いつもより早く家を出た私は、一人でサークルの集合

場所にいました。「今日はまだ誰もこなくて寂しいわ。」と思っていたら、ろうあ者の方が入ってきました。何度かサークルに来たことのある方でしたが、私はまだ一度も手話をかわしたことがなかつたのでちょっととまどいました。

でも、「こんばんわ。」とあいさつだけしました。このような時、向こうも「こんばんわ。」と言うのが普通です。が、「こんばんわ。」だけではなくてその後にも何か手話を続けていたので、私はびくりして焦ってしまい、よく読みとれなかつたので、「何？よくわからぬのでもう一度お願い。」と頼んだら、丁寧に表現してくれました。一つ、二つと会話をしていくうちに、私はあることに気がきました。私の知らない単語がでてきて私とまどくと、なるべく指文字を使わずに、手話の表現だけで教えてくれるのです。それでもわからないと、でない声を一生懸命に出して、言葉を使って教えてくれるのでした。

なんて優しく、思いやりがあるのでしよう。それなのに私は、精一杯頑張っ

軽蔑していたなんて。自分が恥ずかしい。ろうあ者の時々出すあの奇妙な声、これこそ、健聴者とのコミュニケーションの証だったのです。

数々の発見、そして失敗をしながら、手話と出合っただけでも四年になりました。学校の勉強の忙しい中、手話を両立させることは大変かもしれませんが、でも、サークルに行くだけでも、喜んで話しかけてくれるろうあ者の方達を思い出し、できるかぎり行くようにしています。この間などは、「だいたい手話が上手になったね。」などとほめられてしまいました。

国による手話通訳士認定試験の制度などもでき、テレビでも手話通訳が増え、ろうあ問題について少しずつ積極的になってきた、私にできることは何でしょうか。立派な手話通訳士になることでしょいか。それともボランティア運動等を行って、社会福祉に貢献することでしょうか。いいえ、そんな大きなことが今の私にできるはずはありません。

今の私にできること、それはあのろうあ者の役に立とうーなどという思い

上がったことではなく、せめてろうあ者と仲良くすることだと思います。どんなに立派な手話通訳士であっても、またどんなに福祉に貢献してもろうあ者達と心が通じ合っていないければ、それは無駄になってしまふことではないでしょうか。役に立つ前にお互いの心の中を理解したいのです。手話を単なる教養として学んだとしても、またろうあ者とのふれあいのために学んだとしても、手話を学んだことには変わりはないと思う人もいるかもしれませんが、でも私は、前者と後者とは決して同じではない、と思うのです。ろうあ者にとってみれば、ただ手話ができる人よりも心で手話を学んだ人の方が、ずっと頼りがいがあるのですから。

今年もまた、何人かの講習生がサークルに入会してくることでしよう。その時にまた手話、そしてろうあ者について考えさせられたあの言葉を耳にするかもしれない。そう、心で学び、心で接する、という大切なことを私に教えてくれたあの言葉を。

珠算検定

滝沢さん七段に

先に行われた全国珠算教育連盟主催の第二百十六回珠算検定試験で、情報商業科二年の滝沢千恵子さんは見事七段に合格いたしました。

七段は、かけ算、割り算、見取り算、伝票算、暗算、応用算、それに開法などの各種目にわたって厳しい試験が行われますが、本校では初めての快挙です。滝沢さんはさらに八段位に挑戦するため目下懸命に練習に励んでおります。

マヌカウからの訪問団来校

先に「若鮎」でお伝えしたように、去る七月にニュージランドのホーウィック・カレッジと姉妹校提携の縁結びを行ったのを機に、本校から校長先生はじめ職員生徒二十三名が同校を訪れました。またホームステイによる交流と語学の研修を目的に十日間同地に滞在しました。

そのホーウィック・カレッジのあるマヌカウ市から、こんどは市民の訪問団がやってきました。去る十一月八日にマヌカウ市の市長さん夫妻ら、身体の不自由な方々も交えた三十名が来校し、記念講堂の大ホールでは生け花の説明を聞いたのち、生徒とともにお稽古をしました。そのあと茶道部の人たちのお茶をご馳走になり、大ホールでは音楽科生徒の独唱や独奏にたのしいひとときを過ごし、「ワンダフル、ワンダフル」を連発していただきました。



一緒に生け花のお稽古をするマヌカウ市長夫人(左端)

編集後記

ここに、ひめまつ第四十五号をお届けします。

本年度は、私たちの学校にとりまして、記念すべき一年でありました。平成二年の秋、盛大に行われた本校創立九十周年記念式典の印象は今なお鮮明に脳裏に浮かびます。敵かな中にも生き生きとした息吹きが感じられ、過去を偲ぶより以上に、将来への展望がひらけるような雰囲気でした。

また、編集委員会にとりまして、忙しい一年でした。従来、学校新聞「若鮎」と生徒会誌「ひめまつ」だけでしたが、九十周年記念会誌の制作という大きな仕事が入り、私たちは夏休みも登校してがんばりました。記念誌は、既に皆さんも読んでくださったことと思います。

私たちは、原稿の集収、資料の整理など、われながら頑張ったと思いますが、和久、誠先生をはじめ、菊田民子、大谷、武の各先生方にはいつもながら大変お世話になりました。先生方のご指導があったからこそ、このような冊子ができあがったのです。

そして、会員の皆さんからも例年に増してたくさん原稿が集まり、嬉しい悲鳴をあげました。紙面の都合で、掲載できなかった作品にも力作が多く、心苦しい思いです。ありがとうございます。

私たち三年生はもう卒業ですが、私たちがたずさわった「ひめまつ」が、百周年、二百周年の礎になるかと思うと会員の皆さんに、是非すみからすみまで読んでもらいたい

という思いが、より強くわいてきます。
なお、創立九十周年を記念して、表紙の原画を全校生から募集しましたが、三年一組の船橋有貴さんの作品が採用になりました。
最後に、校長先生をはじめ、多くの先生方から、原稿を頂くことができ、紙面をおかりして御礼申し上げます。
ありがとうございました。

(編集委員長 見形貴大)

校史と校章

平成2年11月2日に本校の創立90周年記念式典が行われました。その創立者、須賀栄子先生は、女子に最も適切な技芸を教授し、その時代と境遇に順応すべき実際の婦人の養成を教育の主旨とし、共和裁縫教習所から、共和裁縫女学校、宇都宮須賀女学校、宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、発展させてゆかれました。その後を須賀友正先生が受け継がれ、学制改革により、宇都宮須賀高等学校となり、さらに、宇都宮短期大学を設置し、高校も宇都宮短期大学附属高校と改名されました。友正先生の後を受け継がれたのが、現校長先生でいらっしゃる須賀 淳先生です。先生は宇都宮短期大学附属中学校を設置し、ますます学校を発展させて、現在に至っております。

我が校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、生徒一人一人が、それぞれに、本校生徒としての価値を知り、その価値を自覚することこそ、人間の大きな喜びであり、幸福への素材であるとし、学校はそのあり方を勉強する場であるというのが、須賀栄子先生のお考えです。私たちは現在、この言葉を胸に、本校生徒としての価値を認識し、生活しています。

本校には、現在に至るまで、いくつかの校章がありました。現在使われている校章の由来は、創立者須賀家の祖先が武士の旗印として使っていた、「ス」の文字を3つ組み合わせたものです。

「ひめまつ」第四十五号(非売品)
平成三年三月十日印刷発行
宇都宮市睦町一番三五号
宇都宮短期大学附属高等学校
編集人 顧問 和久 誠
発行人 生徒会長 福田 有美
印刷所 宇都宮市鶴田町一三五九の一
ヤマセン印刷株式会社
0286(8)1111
印刷人 山本 征一郎
発行所 宇都宮短期大学附属高等学校
〒320 TEL 0286(8)416111三番